

報道関係各位

一般社団法人 日本抗加齢医学会
広報委員会事務局

<ご案内とご参加のお願い>

2024年度第2回日本抗加齢医学会 WEBメディアセミナー
「2024 アンチエイジングトピック」

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

一般社団法人 日本抗加齢医学会は、12月4日(水)に下記のとおり2024年度第2回WEBメディアセミナーを開催いたします。ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご参加のお申込みはオンラインにて、12月3日(火)までにお願い申し上げます。

敬具

記

◇ 日 時 : 2024年12月4日(水) 15:00~16:35

◇ 会 場 : WEB(Zoom)

◇ 参加費 : 無料/事前登録制

◇ 参加申込用 URL : <https://www.anti-aging.gr.jp/ci/seminar241204/>

※お申込みいただいた皆様には、後日 Zoom の参加用 URL をご案内いたします。

※QRコードからもご登録が可能です

◇ 司 会 : 尾池 雄一 先生 (日本抗加齢医学会広報委員会委員長)

熊本大学大学院生命科学研究部分子遺伝学講座 教授)



メディアセミナー
参加申込

開会挨拶

尾池 雄一 先生(日本抗加齢医学会 広報委員会委員長)

15:05~15:35

健康長寿をめざすインクレチン受容体作動薬の適正使用:現状と課題

矢部 大介 先生

(京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学 教授)

15:35~16:05

漢方の未病でアンチエイジング

渡辺 賢治 先生

(修琴堂大塚医院院長 / 横浜薬科大学学長補佐・特別招聘教授)

16:05~16:35

社会課題! 男性更年期障害とプレゼンティズム

井手 久満 先生

(順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学 デジタルセラピューティクス講座 特任教授)

閉会挨拶

尾池 雄一 先生(日本抗加齢医学会 広報委員会委員長)

ご参加にあたってのお願い

- ・本セミナーは、Zoomによるライブ配信となります。著作権は日本抗加齢医学会に帰属します。講義の録音・録画はご遠慮ください。
- ・無断でのご利用、第三者の閲覧はお断りします。WEB配信における情報の取り扱いにご協力をお願い申し上げます。
- ・情報を利用しての情報配信、記事化は講演者の承諾を得たうえでお願いいたします。

演者へのご質問について

Q&A機能を使い、司会あてにお名前、ご所属先、質問事項をお知らせください。

頂いた内容を司会より読み上げさせていただきます。多くのご質問をお待ちしています。

以上

2024年12月4日(水) WEBメディアセミナー 抄録

講演1：健康長寿をめざすインクレチン受容体作動薬の適正使用：現状と課題



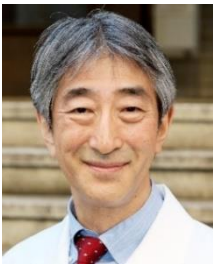
矢部 大介(やべ だいすけ) 先生

京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学 教授

1992-1998 M.D. 京都大学医学部医学科、1998-2003 Ph.D. University of Texas Southwestern Graduate School of Biomedical Sciences、2015-現在 関西電力医学研究所 副所長、2016-2018 京都大学医学研究科糖尿病・内分泌・栄養内科学 特定准教授、2024-現在 京都大学医学研究科糖尿病・内分泌・栄養内科学 教授。

2型糖尿病や肥満症の治療のみならず、心血管や腎機能への有益な影響も報告されるインクレチン(GLP-1、GIP)の作用にもとづくインクレチン受容体作動薬は、老年期のQOL向上にも寄与する可能性があります。しかし、高齢者における適切な使用方法の確立は依然として課題です。最新のエビデンスを踏まえ、個別化医療における意義や今後の展望について考察します。

講演2：漢方の未病でアンチエイジング



渡辺 賢治(わたなべ けんじ) 先生

修琴堂大塚医院院長 / 横浜薬科大学学長補佐・特別招聘教授

1984年慶應義塾大学医学部卒、医師・医学博士。慶應義塾大学医学部内科、東海大学医学部免疫学教室、米国スタンフォード大学遺伝学教室、北里研究所(現：北里大学)東洋医学総合研究所、慶應義塾大学医学部漢方医学センター長、慶應義塾大学環境情報学部教授・医学部兼任教授などを経て2019年より現職。

漢方では古来未病の治療が最高とされ実践されてきました。例えば心筋梗塞を例にとると、酸化ストレス・糖化ストレスが血管老化をもたらし、慢性腎臓病(CKD)になり、最後に心筋梗塞を発症します。当学会アンチエイジングドック推進委員会では、こうした潜在的な異常を早期に把握するため、未病を見える化するシステムを開発しました。将来の病気の予兆を把握し、対処することが漢方の「未病の治療」につながります。

講演3：社会課題！男性更年期障害とプレゼンティズム



井手 久満(いで ひさみつ) 先生

順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学

デジタルセラピューティックス講座 特任教授

宮崎大学医学部卒業、国立がんセンター、UCLA ハワードヒューズ研究所、帝京大学、獨協医科大学埼玉医療センター低侵襲治療センター教授を経て2023年4月より現職。

テストステロンは男性の身体機能や精神機能の維持に重要な役割を果たします。加齢に伴いテストステロンは低下していきませんが、ストレスや生活習慣でもテストステロンは変動します。最近、プレゼンティズムの状態、いわゆる出勤しているものの、健康上の問題やストレスなどにより十分なパフォーマンスが発揮できない状態が社会的にも問題視されています。テストステロンの低下から引き起こされる男性更年期障害・加齢男性性腺機能低下症候群(Late On-set Hypogonadism; LOH 症候群)とプレゼンティズムの関連についてご紹介したいと思います。